

# コロナでの交友関係の変化とその要因

～大学生のニューノーマルなトモダチ付き合いとは～

班員：小林泰輝(班長) 斎藤一真(副班長) 室岡浩基(接続)  
深井翼(DB) 山内賢人(PPT) 北山晴喜(記録)  
担当教員：和田健太郎 TA:高橋諒

## 1. 背景

大学生活において交友関係は非常に重要である。論文(1)では、大学生に対しアンケート調査を行い、被説明変数を大学生生活充実度、大学生生活充実度の尺度を期待感、交友満足、学業満足、不安の4つに分けてこれらを説明変数として重回帰分析を行っている。その結果、学業満足は関連が見られなかったのに対して、交友満足が最も大きく関連することが示されている。

ここで、今年の春で行われたオンライン講義の評価について見ていきたいと思う。筑波大学新聞でのアンケート中で、教員も学生も約半数がオンライン授業は良いと回答していることなどから、コロナウイルスが収まった後でもオンライン授業は継続すると考えられる。しかし、アンケート内容から見るとこれは学業からの視点であって、交友関係の側面は軽視されている。学業満足よりも交友関係が充実度に大きく関連するという結果があるのにも関わらず、オンライン講義の交友関係の面を詳しく考えられてはいない。

ところで、交友関係といっても様々な側面がある。例えば、浅く広い交友なのか深く狭い交友なのかということや、新しく友人を作るのか友人関係を維持するのかということ、時間や人数ではなく満足度についてはどうなのか、といったことである。したがって、漠然と「交友関係」と述べてきたが、一括りに交友関係と述べるのは乱暴な議論である。新生は新しい友人関係の構築がオンライン状況下で難しくなっている。それにより、友人と出会うことができず、大学での

孤独感を感じる人が増えていると言われる(2)一方、在學生はどうか。在學生はもともと作り上げたネットワークがあったが、それはオンライン状況になりどう新生との差異をもたらしたのか。検証する必要がある。また、講義のオンライン化で影響があったのはどのような交友関係の場面なのだろうか。挨拶などの機会が減ったのか、長時間の会話が減ったのか、これが満足度にどう影響したのか。細かく切り分けて考える必要がある。

また、オンラインでの交友活動についても考える必要がある。実際に会うのとオンラインを通して話すのでは特徴に違いがある。オンライン上では相手の顔を見ることができなかつたり、空気感が伝わってこなかつたりするために自分のことをさらけ出していくのが難しい。また、チャットでは絵文字などは使えるもののオンライン通話同様顔が見えなかつたり雰囲気や表情を伝えづらかつたりするため、自分の感情を伝えるのは容易ではない。しかし、全てがデメリットというわけではなくメリットもある。例えば、オンラインでは家に居ても会うことができる。つまり、時間と場所に制約が少ないという点だ。夜遅くでも寝る時間ギリギリまでコミュニケーションを取ることができる上、それぞれが自宅で会話できるので場所を指定して集合したり門限など気にしたりしなくても良いのだ。

## 2. 目的

これらの背景から至った今回の演習の最終的な目的を、コロナの流行によりオンライン化を経験した今だからこそできる、大学における新たな交友関係のあり方の提案、とする。

コロナ以前の大学生活にはオンライン活動という選択肢はほとんどなく、活動はすべて対面のみで行っていた。その生活はオンラインのみで行われた2020年度の春学期に比べると圧倒的に人とのふれあいが多く、充実した大学生活といえるだろう。しかしながら対面での活動にプラスして適宜オンラインでの活動を混ぜるといった活動様式に比べるとどうだろうか。実際にオンラインのみで行われた春学期の活動に物足りなさを覚えたであろう2019年度入学以上の学生達も講義のオンライン化やZoom飲み会などを行うにあたって、移動の必要がないことや時間の制約が少ないことには便利さを感じただろう。オンライン化によって得たこれらの価値を対面での活動自粛解除と同時に失ってしまうのはあまりにもったいない。

この班の提案では①活動の種類、②対象者の性質、③コミュニケーションの深さという3つの視点を用いて様々な生活スタイルを持つ様々な状況に置かれた大学生に対応した解決策を提示することを目指す。

対面とオンラインを組み合わせることでコロナ以前より密な交友関係を育み、素敵な大学生活を実現しようではないか。

## 3. 仮説

### 3.1 交友関係の満足度・人数について

【仮説①：1年生の交友関係について】

今年の1年生は新型コロナウイルスが流行している最中に大学に入学してきたため、大学の友達をなかなか作ることができなかつたと考えられる。新しい友達を作りたいと思ってもそれができない状況を強いられてしまった。そこで、「今年の1年生は2年生以上と比較して交友する人数が少なく、交友の満足度も低いのではないか」という仮説を立てた。

【仮説②：2年生以上の交友関係の変化について】

今年度の春学期はほとんどの授業がオンラインで行われ、2年生以上の学生も友人と実際に会う機会が激減した。そのため、1年生が交友関係に満足していないのと同様に2年生以上も交友関係に満足していないのではないかと予想するのが普通かもしれない。しかし、2年生以上の学生は新型コロナウイルスの流行前に友人ができており、仲の良い友人とは今年の春学期も時々会ったり、あるいはZoomなどのオンラインツールで会話をしたりしていたのではないかと考えられる。そこで、「2年生以上の学生は交友の人数は減ったが交友の満足度に関してはそこまで減少していないのではないか」という仮説を立てた。

【仮説③：交友の場面ごとにおける回数の変化について】

一方で、実際に会う機会が失われてしまったことによりオンライン上で今までほとんど行われることのなかったコミュニケーション方法が台頭してきた。例えば、Zoomなどといったオンライン会話ツールである。多くの学生たちがZoomなどを利用して友人とオンライン飲み会を行ったり、所属するサークルや部活動でオンラインミーティングを開催したりしたのではないだろうか。また、LINE・Instagram・Twitterなどの既存のコミュニケーションツールにおける交友の回数も増加したと考えられる。例えば、昨年と比較してLINEのトークをする人数が増加した、Instagramのストーリーに反応する回数が増加した、Twitterで他者のツイートにリプライする回数が増加した、などである。そこで、「オンライン上での交流が活発化し、オンライン上での交友人数が増加したのではないか」とい

う仮説を立てた。

また、挨拶・会釈といった浅い交友（そこまで仲が良いわけではない、いわゆる「よっ友」の関係）の回数は対面授業がなくなったことにより減少したということが予想できるが、長時間の会話といった深い交友（仲の良い関係）に関してはそこまで減っていないのではないかとこの仮説も立てた。

## 3.2 交友関係の人数を規定する要因について

本項では、交友関係の人数を規定する要因についての仮説を述べる。

まず、昨年春の交友関係を規定していると考えられる要因を述べる。はじめに SNS 利用についてである。当班では、筑波大学生に利用されている代表的な2つの SNS として Twitter と Instagram を取り上げる。まず、Twitter、Instagram 両方について、利用が増加するほど交友関係の人数が増加する、特にチャットを行う人数が増加するという仮説を立てた。Twitter 利用についての指標として、ツイート数、そして自分へのリプライではないツイートへの自発的なリプライ数を採用する。Instagram 利用についての指標として、ストーリーへの投稿回数、そしてストーリーに反応した DM 送信回数を採用する。また、LINE での個人チャットや、他の SNS の DM の着信からの返信までの時間も交友関係の人数、特にチャットを行う人数に対して正の影響を及ぼすという仮説を立てた。

次にサークルや講義等についてである。サークルの所属数については所属数の増加につれて交友関係の人数が増加するという仮説を立てた。また、普段の居住環境について、宅通群に比べて一人暮らし群の方が交友関係の人数が増加するという仮説を立てた。また、通学時間は少なければ少ないほど交友関係の人数が増加するという仮説を立てた。また、筑波大生が同僚にいたるアルバイト・パートの週当たりの勤務日数が増

えるほど、交友関係の人数が増加するという仮説を立てた。

今年春・今年秋について、昨年春よりも大きい影響を及ぼすようになったという仮説を立てた要因を述べる。まず、SNS 利用についての要因が昨年春に比べてより大きく影響するという仮説を立てた。また、一人暮らしと宅通との差がより明確になったという仮説を立てた。

今年春・秋特有の要因として、オンラインでのサークル活動の頻度・回線速度や PC スペックが正の影響を与えるという仮説を立てた。また、オンライン会議ツールへの苦手意識が負の影響を与えるという仮説を立てる。今年秋学期特有の要因として、対面講義のコマ数、そして対面での体育や実験・グループワークのコマ数が増加すると交友関係の人数が増加するという仮説を立てた。

## 4. 調査概要

11/4～11/15 の期間で、筑波大生・院生を対象に、2020 年度入学の学生と 2019 年度以前入学の学生に分けて全 48 項目のアンケートを実施する。昨年春学期、今年春学期、現在のそれぞれについての交友関係の満足度と人数を調査するとともに、それらを規定する要因についての仮説を検証できる質問項目を組み入れ調査する(昨年春学期は 2019 年度以前入学者のみ)。

アンケートの目的としては、交友関係の満足度と人数を計測する際に、2019 年度以前入学の学生と 2020 年度入学の学生に分け、大学生活が変化する前後の時期に分けることで、交友関係を維持することと新たに築くことのそれぞれに大学生活の変化がどれほど影響を与えたのかを明らかにすることである。また、交友関係の人数に影響を与える要因を調査することで、特にどの要素が影響を及ぼしたのかを明らかにすることができる。

交友関係の人数に関しては、週当たりの平均人数を「挨拶・会釈」「軽い会話」「長時間の会話」「通話・ビ

デオ通話」「チャット」の5種類に分類し、時期によりどのように交友関係が変化したかを調査する。

アンケートの集計結果をもとに、対面からオンラインに変化したことによる交友関係の満足度、及び人数の時系列的な変化を調査するとともに、交友関係を規定する様々な要因を説明変数、交友関係の人数を被説明変数とした重回帰分析を実施し、どの要因がどれほど交友関係に影響を与えているかを考察する。仮説からもオンラインでの活動が生まれたことにより交友関係に変化があることが推測されているため、その変化を規定する要因を把握することで、より効果的かつ具体的な提案をすることが可能となる。

## 5. 最終発表に向けて

まずアンケートの集計を行い、終了次第上記のようなデータ解析を行う。その結果を分析することで大学における交友関係を規定する要因や対面とオンライン双方の利点と欠点を明らかにし、現状やその後の大学生活において以前にも増して広く深く交友関係を深められるような具体的な提案を考える。

## 6. 謝辞

演習を進めるにあたり、担当教員の和田健太郎先生、TAの高橋諒さんにご協力をいただきました。この場を借りて感謝を申し上げます。

## 7. 参考文献

1) 「大学生生活充実感を規定する要因の検討」大対 香奈子 「日本教育心理学総会発表論文集 第56回総会発表評論文集 p. 175

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjaep/56/0/56\\_175/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/pamjaep/56/0/56_175/_article/-char/ja)

最終閲覧日：11月4日

2) ダイヤモンド社 大学生「もう限界!」、授業オンライン化の大混乱で孤独・睡眠不足・心身不調に 鈴木洋子

<https://diamond.jp/articles/-/244872?display=b>

最終閲覧日：11月4日

3) オンラインコミュニケーションは難しい? オンラインコミュニケーションの問題点と解決策

[https://go.chatwork.com/ja/column/business\\_chat/business-chat-014.html](https://go.chatwork.com/ja/column/business_chat/business-chat-014.html)

最終閲覧日：11月4日

4) 「オンライン授業に関する教員へのアンケート」筑波大学新聞 第358号

<https://www.tsukuba.ac.jp/public/newspaper/pdf-pr/358.pdf>

5) 「オンライン授業・土曜授業に関する調査」筑波大学新聞 第357号

<https://www.tsukuba.ac.jp/public/newspaper/pdf-pr/357.pdf>